

< 事業所評価の結果 >

実施日 西暦 2025 年 12 月 18 日

事業所名 小規模多機能ホーム光の園おおくら

役職/氏名 管理者 / 松岡 亮二

■評価の結果「できている」と感じた点や、日頃から特に力を入れている点

職員が安心して働ける職場にはなっていると感じる。特に法人内外への研修の機会に恵まれており、学ぼうという意識や意欲に対して応えられていると思う。職員同士のコミュニケーションも円滑であり、それぞれが疑問に思ったことを共有し、問題の解決に向けてチーム一丸となって向き合っている姿勢は弊所ならではのなと歓心するところ。利用者に対しては重度であっても、今よりも笑顔の多い1日を過ごしてもらおうという気持ちが職員の姿勢に表れているので、家族も安心してご利用いただいている。

■評価の結果、「できていない」と感じた点と、改善に向けた取組案

もう少し家族に寄り添うことができると思う。介護力を引き出す動きや説明など、家族が今何を求めているのか。現状の変化から、今後どのようなことが起きるのかを職員が先回りして伝えていく力は、まだまだ成長の余地があると感じている。また登録人数が減っているということは地域に対して小規模多機能居宅介護の有益性をきちんと届けていないということにもつながっており、来年度は広報活動も含めて、外部機関とより密な連携を行うとともに、（介護予防）についての知見を深め、サービスの範囲を見直していきたいと考えている。

※上記は、従業者等自己評価の後に記入してください

■評価表[従業者等自己評価]

番号	評価項目	2025				評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]						
(1) 理念等の明確化						
① 小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践						・「計画目標の達成」について、評価します
1	・サービスに求められる「①利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での訪問支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、	○				・①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ・①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりでき
		[具体的な状況・取組内容]				

	<p>「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている</p>	<p>①～⑤までの実践について具体的にあげる。①の利用者の在宅生活の継続支援：今年度の終了した利用者のほとんどが2年以上の利用となっている。利用が短かった方もいるが入所までの待機利用や、体調を崩しての入院がほとんどである。②の訪問支援も状況／今年も看取りまで行った利用者がある。訪問介護と連携し、自宅で最期まで過ごしていただくことができた。亡くなる直前の2週間は毎日訪問を行い、利用者だけでなく家族のサポートにもつながったと感じている。③生活機能の維持回復／当初、自分で歩くのもやっとだった要介護4の方も今はスタスタと歩行されている。他の方にもいえることだが毎日の小さな継続が大きいと考える。④家族の負担軽減／全体の要介護度が上がったため、うまく調整をしながら宿泊枠をやりとりしている。家族の皆様は協力的であり、そのおかげで成立していると言える⑤は町田市小規模多機能連絡会、町プロ協議会、鶴川圏域地域ケア会議、町内会の行事等に参加することで貢献できていると言わせていただきたい。</p>				<p>ていない」 ・独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
2	<p>・サービスの特征および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している</p>	○				<p>・「サービスの特征および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ・独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
[具体的な状況・取組内容]						

配属3年以上の介護士が半数以上いるため、皆、ここで何をすべきかを十分に理解していると言える。勤続10年以上の介護福祉士についても30%以上おり、サービス提供体制強化加算Ⅰを取得。離職が少なく職場環境となっているのではないか。理念や考え方お浸透していると感じている。

(2) 人材の育成

① 専門技術の向上のための取り組み

3	<p>・職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している</p>		○		<p>・「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</p> <p>・すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</p> <p>・育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</p>
		[具体的な状況・取組内容]			
		<p>管理者は職員と個別に話をする時間をとることを心がけている。育成計画においては、個別計画書を作成し、今年度の課題と目標を設定。ベテランから若手まで、少しでもサービスの質が上がるように取り組んでいる。</p>			
4	<p>・法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している</p>		○		<p>・「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</p>
		[具体的な状況・取組内容]			
		<p>法人としての研修が充実している。介護力向上委員会が主催し、本年度は事例検討会やボディメカニクスの研修が行われた。他事業所の職員とも交流が深まり、アセスメントや技術の話など議論が闊達。新しい刺激を事業所の利用者に生かしている。</p>			

② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保						
5	・介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・「情報を共有する機会」の充足度を評価します ・例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容]				
		前年同様、基本的には職員間の情報共有はできている。しかし、役職の職員に指示を仰ぎすぎていることがあり、職員が自分の頭で考える機会の消失に繋がっている。方針を伺う前に、まず自分ならどうするべきかを考えてもらうよう指導していく。				
(3) 組織体制の構築						
① 運営推進会議で得られた意見等の反映						
6	・運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]				
		運営推進会議は毎回充実している。運営に関して、特に大きな要望はでていないが、地域の人たちが交流できる場に感謝されている。地域包括の職員、民生委員、町内会長、地域の方。今年は、利用者家族が参加することが難しかったが、次年度は利用者の家族にもぜひ参加をしてもらいたい。				
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備						

7	・職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	○				<p>・「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>・例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
		[具体的な状況・取組内容]				
		<p>職員同士の意見の違いを如何に防ぐか。当人同士の間に入り、きちんと話をすれば解決できるので、その点は意識して対応している。設備に関しては、開所14年が経過し、劣化している箇所もある。都度、対応しているが、キッチンなど修繕に時間がかかる部分もあり、職員がストレスを感じることもあった。今年、業者に入ってもらい改修を行った。</p>				

(4) 情報提供・共有のための基盤整備

① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備

8	・利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				<p>・「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		[具体的な状況・取組内容]				
		<p>事業所で申し送りの時間を設けることが難しいので、人を見つけて共有するようにしている。送迎に関するインシデントが続いたときもあったが、しっかり共有し直し、確認体制を整えて、インシデントが増えないよう意識して取り組んでもらっている。</p>				

(5) 安全管理の徹底

① 各種の事故に対する安全管理

9	<p>・サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている</p>	○			<p>・「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		[具体的な状況・取組内容]			
<p>事故の予防・対策としてはインシデント・アクシデントシートの活用している。上述のように今年は送迎に関するインシデントがいくつか挙がった。シートを書き方について、具体的でない解決策などがあがっている時がある。「見守りを強化します」「気をつけます」という言葉は使い勝手はいいが内容がない。この場合、具体的に何をすれば今後それが起きないのかを考えてもらうよう指導している。</p> <p>今年は法人内に広報委員会を立ち上げ、利用者だけでなく、職員の肖像権を護る活動もはじまった。SNS等でいろいろな情報を発する時代。このあたりも承諾を得て、外に情報発信を行っていく。</p>					

② 災害等の緊急時の体制の構築

10	<p>・災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている</p>	○			<p>・「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ・例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>
		[具体的な状況・取組内容]			

法人の中で、事故・防災委員会があり、そこが主となって避難訓練などを行っている。光の園おおくらは、鶴見川沿いにあるため、水害想定訓練が重要となる。またBCPにつながる訓練として、消防庁の動画を拝聴した。避難経路、消防計画に則った役割、備蓄品などを再確認することができ、非常に有意義であった。

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・評価にあたっての補足
		2025	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	
II サービス提供等の評価						
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供						
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成						
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施						
11	・在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	3	4	0	1	・「計画目標の達成」について、評価します
		[具体的な状況・取組内容]				
		食事・排泄・入浴、歯磨きなど一連の動作ができるかを中心にアセスメントを行っている。【通い】のときの行動や様子の変化を見ている。それに対して、家ではどうなのかを考えて、職員同士で情報を共有している。【訪問】在宅を24時間と捉えると、しっかりとごはんを食べているか、自宅に危険物、転倒のリスクがないか、手すりがあるかなど身の安全を考えて支援している。				
12	・介護職と介護支援専門員・看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、各職種の間で共有されている	2	5	0	1	・「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ・介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
		[具体的な状況・取組内容]				
		現在は申送ノートを活用。疑問に思ったことがあるとケアマネ、看護師に聞いて、口頭でフロアで共有している。特に、以前の状態と比較しながら行っている。特に食事形態について。新規の利用者の場合は情報提供書を確認し、既に対応している職員がいるならばその職員に聞く。自分が聞かれた場合も質問に答えている。				

② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成

13	<p>・家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている</p>	3	4	0	1	<p>・「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		[具体的な状況・取組内容]				
		<p>看護師として本人の考えや状態を把握するために食事形態などを観察して、状態に適した支援内容を考えている。役割活動などを望む、望まないはその方の行動や声かけをして確認をしている。「冷たい」「温かい」など選択肢を提示すると本人の好みなどを読み取ることができた。声かけの重要性を知った。</p>				
14	<p>・利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている</p>	3	4	0	1	<p>・「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>・「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		[具体的な状況・取組内容]				
		<p>フロアとしては、「つまらない」ではなく「たのしかった」と思わせる取り組みを1日を通して実施するよう心がけている。看護師の視点では体力面・筋力面をケアプランをもう少し意識してみたいと思う。夜勤帯に確認をして、車椅子等を使う選択肢もあるが、目標が「歩きたい」とあれば、なるべく歩いてもらうように努めている。「やらなきゃいけない」と思うと失敗するので気持ちにゆとりを持つようにしている。</p>				

③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成

15	<p>・利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている</p>	3	3	1	1	<p>・「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>・介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>【通い】 【訪問】 まず何かあれば日直に報告する。本人が内鍵を開けられなくなったり、お弁当箱の蓋を洗濯ばさみで干すなどの行為があった時に、変化を感じ伝えるようにしている。日勤帯の申し送り夜勤についたが、咳込みなどがあったことから、最近食べるペースが遅くなったことに気づく。そのことを共有した。</p>				
<p>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</p>						
<p>① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映</p>						
16	<p>・サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている。</p>	4	3	1	0	<p>・「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>・「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>【訪問】 時、歩行状態が悪いことと、これまでになかった排泄の失敗があってホームにつれてきて更衣を行う。本人は失禁の自覚はなかった。そのことをケアマネに伝える。家族に連絡し、玄関の椅子が汚れている点と歩行が悪い点。加えて本人が気づいていないから排泄の感覚が落ちてきていると伝える。家族の反応は、なんとなく機能低下に気づいていた。そこでプランの変更などをつなげた。</p>				
<p>② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映</p>						
17	<p>・通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅</p>	2	5	1	0	<p>・「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p>				

での生活状況の変化を継続的に把握している	【訪問】の意義は、ホームでの利用者と、自宅での利用者像の差を感じられる。ホームでは社会的意識が働いて、気を張っている状態だが自宅では素の自分で過ごしているから、テレビのチャンネルなどからこだわりや趣味嗜好を感じることができる。	・訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
----------------------	---	---

③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有					
18 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	2	5	1	0	・「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
	[具体的な状況・取組内容]				
	基本的には電話で行っている。訪看は、意識低下などがあった時は5w1Hの報告を入れている。変化があれば再度連絡しますと念を押している。福祉用具は、来所してもらったときに家族の意向などを伝えている。MCSも使用している。				

(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供

① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供					
19 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	1	6	1	0	・「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ・介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
	[具体的な状況・取組内容]				
	小多機における看護師の役割は、配薬、血圧測定、食事量の確認。導尿管などがある利用者の爪切り、入浴時の全身観察を依頼している。排便・排尿なども。介護士が出来ない浣腸・摘便なども依頼できていることで助かっている。薬の残量のアナウンスメントもしてもらっている。				

20	・利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	1	6	1	0	・「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]				
		看護師出勤時、口頭や連絡ノートで伝える。家族から依頼されたことなど、看護師に状況を観察してもらい、医師の必要性を判断してもらうことで、スムーズに家族に伝えることができる。看護師自身も家族から情報を直接入手している。				
② 介護職から看護職への情報提供および提案						
21	・介護職から看護職に対して、収集したバイタル情報・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	0	7	1	0	・「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ・このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		[具体的な状況・取組内容]				
		上記、19、20の設問と同じであり、日々のバイタル測定の記録や排+B39便の記録を共有し、介護士が利用者に不安を感じる点を相談し、どのように対応するか、決めている。介護士より看護師が家族や医師に説明した方が納得できる場面も多々ある。				
(4) 利用者等との情報及び意識の共有						
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供						
22	・サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	4	1	0	・「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]				

職員の意に反する行動をした場合、一旦、見守る。それから声かけを行う。特に「つまらない」や玄関にふっと行ってしまった時など、こちらも疑問なので、その行動を解釈（アセスメント）してから言葉かけしようとしている。毎回、その行動をとる意味が異なるため、そこの行動を通して、利用者に寄り添うようにしている。

② 利用者等への「在宅生活」に係る介護方法等の指導・説明

23	・作成した計画の内容や在宅生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	4	1	0	・「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]				
		<p>自宅でいつ転倒するか分からず、リビングの途中から玄関にかけて手すりを提案する。また靴を履くときに前かがみなるのが怖いと言われたので家族へ代弁したが上手く伝わらないこともある。そこで諦めず、本人の状態の進行具合に合わせて、再度納得してもらう機会を設けることにする。考え続け、伝え続けることが大事。</p>				
24	・利用者等が行う服薬管理や福祉用具の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法、家族等が行うケアの	1	6	1	0	・「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]				

	<p>提供方法について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている</p>	<p>ホームでの食事写真や介助方法を伝えるようにしている。それにより家族が安心されている。排泄に関して血尿などが出た場合は写真を撮って画像を渡し、医療機関への受診を促している。手すりや介護ベッドの必要性等を説明している。上記と同じく理解を得るまで様々な視点で話をしている。但し、金銭面での問題もあるため、慎重に進める必要がある。</p>				
<p>③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有</p>						
25	<p>・利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している</p>	3	4	0	1	<p>・「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>小多機において看取りを行う機会が少ないが、利用者がホームに来る事を楽しみにしていた。家族も「ここに連れて行ってもらいたい」という意向があったが、全く知らない介護士や看護師に診てもらうよりは、母が大事にしていきたいホームの職員たちと一緒に看取りを選んでいただいた。年月の積み重ねが作った信頼が生んだ結果であり、本人の希望を叶えることにつながった。</p>				
26	<p>・在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる</p>	3	4	0	1	<p>・「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p>				

本人が脳梗塞になり、家で見るのは難しくなって有料老人ホームを見学し契約するも家族の腰がなかなか上がり、「かわいそうだから」と在宅生活を継続していた。最後まで「合わなかったら、また戻ってきてもいいですか?」と言われ、肯定して入所に至った。ケアマネはかなりの時間、相談に費やした。

27 ・終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している

2	5	0	1
[具体的な状況・取組内容]			
支援経過記録に事細かく記載している。末期の胆管がんが、在宅診療、訪看、福祉用具、小多機が一体となって支援を行った。家族の信頼も厚く、最期を笑顔で過ごすことができた。			

・「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します
 ・「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」

2. 多機関・多職種との連携

(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供

① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行

28 ・病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している

2	5	0	1
[具体的な状況・取組内容]			
家屋調査を兼ねた退院時カンファレンスなどに参加している。訪看を導入するために連絡をするなどしている。			

・「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します
 ・例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます

② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有

29	<p>・すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、家族等と相談・共有することができる</p>	1	6	1	0	<p>・「緊急時の対応方針等の家族等との相談・共有」を評価します</p> <p>・利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を家族等と相談・共有しておくことが重要です</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>契約時に「重度化した場合における対応について」の同意書を得ている。その後、状態等に変化があれば介護版のインフォームドコンセントを使用し、家族と共有、延命措置や救急搬送などについて共有している。</p>				

③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築

30	<p>・地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている</p>			○		<p>・「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>小規模多機能居宅介護は在宅介護施設であり、強固な医療連携体制が取れている訳ではない。但し、昼夜を問わず、連絡があれば、主に管理者とケアマネによる対応になるが即座に駆けつける体制は整えている。とはいえ、多くの場合、家族による救急対応がほとんどである。</p>				

(2) 多職種との連携体制の構築

① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討

31	<p>・運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域</p>	○				<p>・「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなど</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p>				

<p>包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている</p>	<p>今年度より、町田市社会福祉協議会のまちだ〇ごとサポートセンター鶴川の職員にも参加してもらっている。民生委員、地域包括、町内会、警察、地域の方の情報は、利用者に直接的でないにしろ有意義なものが多い。例えば、地域の防犯情報であったり、お祭りの情報であったり。それらを利用者の皆さんと共有できることは大変ありがたい。</p>	<p>の取組」の充足度を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ・民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
---	--	---

3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画

(1) 地域への積極的な情報発信及び提案

① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信

32	<p>・運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている</p>	○				<p>・「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>現在の運営推進会議の閲覧方法は、事業所の玄関に議事録を設置し、誰でも読めるようにしている。ホームページ内に掲載することも考えたが、個人情報保護の観点から不特定多数の方が閲覧するところに格納することは断念した。</p>				
33	<p>・サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている</p>	○				<p>・「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ・利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>今年は、大蔵町の方から利用したいとの声が増えたように思う。また以前利用していた方の家族が事業所名を挙げてくれるなど、我々の知らないところで評判を呼んでいることを嬉しく思う。</p>				

(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画

① 行政の地域包括ケアシステム構築に						
34	・管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○			<ul style="list-style-type: none"> ・「内容等の理解」について、その充足度を評価します ・地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ・地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>前年の課題であった「リーダー層及び介護職員等は、制度や事業警戒の細かい部分までの理解が必要とある」と記載していたが、今年度は、年度開始の職員会議に事業計画書の確認を行い、「虐待防止」「身体拘束適正化」「ハラスメント」など内外研修を充実させることによって少しずつではあるが理解は進んでいると感じる。また職員の入れ替わりが少ないこともあり、チーム内の連携に至っては良好で、小規模多機能居宅介護の目的等はしっかりと浸透していると言える。</p>				
② サービス提供における、（特定の建物等に限定しない）地域への展開						
35	・サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供し		○			<ul style="list-style-type: none"> ・「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p>				

<p>ている</p>		<p>エリアに関しては前年と変更はない。しかしながら登録人数の低下が著しく、地域における小規模多機能居宅介護の立ち位置が難しくなっていると感じる。運営推進会議の委員より「現在は認知症で日常生活が困難であっても要介護は出ず、要支援となるケースが多い」と言われた。実際、地域包括支援センターより依頼のあった要支援②の方、区変をかけて要介護①となり、弊所の利用が開始となった独居の方の実情は要支援の状態ではない。家の中に入り、日常を観察すると一人では自立した生活が送れていないことが分かるときがある。その時に（介護予防）を受け入れていないと対応がとれないという歯がゆさがあった。今後、（介護予防）の受け入れも視野に入れながら運営を考えていきたい。</p>	<p>・特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</p>								
<p>③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等</p>											
<p>36</p>	<p>・介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="593 785 810 890"></td> <td data-bbox="810 785 1021 890" style="text-align: center;">○</td> <td data-bbox="1021 785 1238 890"></td> <td data-bbox="1238 785 1451 890"></td> </tr> <tr> <td colspan="4" data-bbox="593 890 1451 938"> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> </td> </tr> </table>		○			<p>[具体的な状況・取組内容]</p>				<p>・「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</p> <p>・ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知</p>
	○										
<p>[具体的な状況・取組内容]</p>											

鶴川エリアの地域ケア会議では、医療と介護の多職種が集まり、地域の課題などの話しをする機会が設けられている。今年度の地域ケア会議のテーマは【地域の防災】で、会議において弊所管理者は、大蔵町の避難訓練と避難所開設訓練が、町内会主導で行われていることを紹介させていただいた。出席者の中には、こうした地域の活動を把握していない人もおり、今年度は地域ケア会議のメンバーと一緒に訓練に参加することになった。

避難訓練では、地域住民、消防団、警察官、介護・看護関係者等が集まり、起震車や煙幕、消火器、三角巾の使い方等を学ぶ。事業所管理者として消防団に質問をすると、地域住民の視線が私に集まり、介護施設の管理者が避難訓練に参加しているのを知り驚いていたように思う。また近隣の薬局で働く薬剤師とも意見交換をかわすことができ、こうした場に顔を出すことの重要性を改めて再認識した。

防災に限らず、こうした提案の場として、町田安心して暮らせるプロジェクトへの議員としての参加や、個別のケア会議を通して問題提起をさせていただきたいと思う。

見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます

・そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

37 ・家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている

		○	
--	--	---	--

[具体的な状況・取組内容]

・「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します

・今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促す

家族等の介護力向上の引き出しについては、家族との関係性に大きく左右される。利用期間が長ければ関係性を築けるという訳でもないが、我々の取り組みを伝えることで理解していただけることがある。例えば、どんなものを、どの程度の量、どんな介助で食べているのか、写真や動画などを使って家族に説明することを行った。これは家族からの要望であった。家族が知りたいことが、伝わりきれていないと感じると共に、どこまでサービス側ができるかを明確に伝える必要があると感じる。小規模多機能だからと言って、何でもできるわけではない。マンパワーには限りがあるため、その最善を尽くすが、出来ない事は出来ないという勇気を持つことも必要である。誤解されない説明に取り組んでいきたい。また運営推進会議委員より、昨年度の子ども食堂の開設について聞かれたが、現在のところ、まだ実施はできていない状況である。

しなから、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます
・そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

■評価表[従業者等自己評価結果]

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・評価にあたっての補足
		ほぼ全ての利用者について達成されている	利用者の2/3くらいについて、達成されている	利用者の1/3くらいについて、達成されている	利用者の1/3には満たない	

III 評価結果

① 計画目標の達成

38	<p>・サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている</p>		○			<p>・「計画目標の達成」について、評価します</p>
		[具体的な状況・取組内容]				
		<p>現状、加齢に伴っての変化が大きく、状態が変わる人が1/3程度いる。また家族の気持ちと利用者の状態に乖離があり、本人・家族の意向を尊重しながらの目標設定していることが達成できない要因として挙げられる。</p>				

② 在宅での介護生活の継続に対する安心感

39	<p>・サービスの導入により、利用者およびその家族等において、介護が必要な状況下においての在宅での生活の継続に対し、安心感が得られている</p>		○			<p>・全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「介護が必要な状況下においての、在宅での生活の継続に対する安心感」について、評価します</p>
		[具体的な状況・取組内容]				
		<p>小規模多機能居宅介護で在宅生活のすべてを支援できるとは限らない。人員配置により送迎時間や訪問時間に制限があるため、できる範囲のことで【宿泊】を絡めながら24時間を家族と共に支えている。但し、臨時の対応は行っている。</p>				